

2009年（平成21年）6月30日（火） No. 15号

K-PUROニュース

<http://www.k-puro.co.jp>
Email info@k-puro.co.jp

【事業所】

- 社名 ■ 株式会社 ケイプロ
- 屋号 ■ 都市防犯プランニング社
- 本社 ■ 埼玉県川口市芝塚原 2-3-11 エステートミア 048-261-3412
- 千葉支店 ■ 千葉県千葉市中央区新町 1-20 江澤ビル 043-243-6110

【業務内容】

- 機械警備事業 ALSOK・SECOMを使用した弊社独自のセキュリティプランニング
- 防犯カメラ事業 周辺環境・建物構造・人的要因・犯罪データを分析し有効かつ適正な位置へ設置
- 建物総合メンテナンス事業 消防設備点検・工事から AED 設置に至るまで全てのメンテナンス業務の取扱い

【加盟団体】

- 川口モーニングロータリークラブ (RI2770 地区) http://blog.goo.ne.jp/morning_2770
- (NPO)さいたまSOHO起業家協議会 <http://www.saitama-soho.com/>
- (社)千葉東法人会青年部 <http://www.chibahojin.jp/>
- (NPO)日本危機管理学総研 <http://www.kikikanri.jp/gathering.html/>
- (財)モロロジー研究所 <http://www.morology.jp/>
- 浦和北親会

【協賛応援団体】

- はやてレスリングプロダクション DREAMERS <http://hayatewp.dip.jp>
 次回興業 2009年(平成21年)7月18日(土)
 新木場1st RING 開場 18:00 試合開始 19:00
 ザ・グレート・サスケ参戦決定



ご挨拶

皆さん、こんにちは。いかがお過ごしでしょうか？



先日 5月 24 日に、応援しているドリーマーズのタッグトーナメント決勝戦が行われました。
 結果は、中里(右)・平原(左)ペアが優勝しました。
 優勝チームへ盾を渡すためリングへ上り、二人を称えている様子です。
 二人が本当に一生懸命戦った様子が顔の達成感から伝わってきます。
 彼らは普段、仕事やアルバイト等をしながら、今しかできない好きなプロレスに魂を全力投球しています。

若い彼らのハートのこもった熱い戦いを皆さんもよかったです是非応援してやって下さい。

代表取締役 木戸 良樹

事件ファイル 住居侵入手口(ガラス破損方法)

日時:平成 21 年 6 月平日の日中 場所:千葉県 建物構造:木造 2F 建 4SLDK

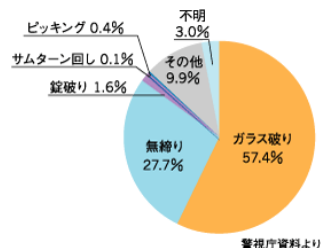
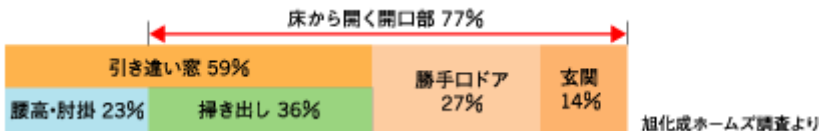
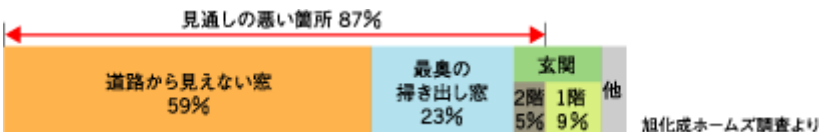
【犯行の手口】

家人が仕事で留守の日中に敷地内に侵入。(門扉は施錠状態。)
 外側から完全に死角となる庭側の掃き出し窓を狙われた。
 その際、掃き出し窓外側の雨戸を閉め、雨戸のロックもかけていた。
 掃き出し窓は、クレセント錠および下側の補助錠も閉まっていたため、十分に手が入るようドライバー等により大きな三角割りを行っている。(写真左)
 建物内に入られ全部屋を物色。
 金庫はやはりパールのような物によりこじ開けられている。(写真右)
 耐火性金庫は耐火性に対しては優れていますが、こじ開けによる強度は強くなく、時間をかけると開けられてしまいます。
 金庫は少し高くなりますが、耐火性を兼ね備えた防盜性金庫がお勧めです。
 《参考》金庫の対応年数は 20 年。20 年を超えると耐火材が劣化して耐火性が約 20%減少します。



【侵入する箇所】

- 周囲から死角となる 1F 掃き出し窓や勝手口扉(90%が 1F から侵入)
- 未施錠の窓や扉(28%が締め忘れ箇所。結構多いです。)



【対応策】

- 近隣との普段からのコミュニティを強くしておく。(無償で不定期な巡回力が補えます。)
- 植木の手入れ(葉の伐採)をこまめに行う。(周辺視認性を確保します。=死角を作らない。)
- 窓の補助錠は、下側でなく、窓の上側に設置する。
- ホームセキュリティを導入する。(弊社にてプランニングいたします。万一の保険も料金内に付与されています。)

天台宗布教師 慈恩寺住職 三輪 真純(みわ しんじゅん) 様



6月20日(土)さいたま新都心ビジネス交流プラザにおいて「さいたま起業家協議会」主催の講演に今年は三輪真純先生に講師をお願いしました。当日は120名の大勢の方々にお出でいただき大盛況に終わることができました。

三輪先生は、なんと今年95歳！
肌もつやつやでとてもお元気です。
目がとても優しく生き仏のような方です。

朝は早起き会の皆さんを見習って「早寝、早起、朝仕事」をモットーに暁天起床、大気を吸引してから、2キロほど先にある観音堂にお参りして読経します。

その往復も歩きながら「南無大慈大悲観世音菩薩」と低く唱えています。

次は境内や道路の掃除です。

落ち葉の秋は2時間もかかります。

「行」ですから落ち葉の有無に関係なく竹箒を使います。

次に自坊にて勤行(ごんぎょう)、朝食です。

日中には必ず郵便局に行くのですが、2キロ位ですので歩き、用事も4キロ以内は自転車です。

月の何回かは講演を頼まれて出かけます。

講演は県内の時もありますが、金沢でも大阪でも全国どこへでもハイよ、とばかりに出かけます。

家では、元気な老妻と仲良く暮らしています。

時々一緒に温泉に行ったり、観劇に行ったりします。息子夫婦も同じ敷地の別棟に住んでいます。

歳を取ると、いつおさらばとなるかわかりませんので、今日の一日が大切になります。

昔は大病を患ったこともありましたが、今は健康に恵まれて、日々の仕事ができることに感謝しながら、一日一日を一生懸命に生きています。

愚鈍な私が「生き方」を求めて50年、先人の跡を尋ねてきた足跡ですが、今辿りついたところは「生き方を宮澤賢治に、暮らし方を良寛に」というところです。 著書「いつも笑顔でありがとう」抜粋



「あせらず おこらず おこたらず」

さいたま起業家協議会のメンバーと

【三輪真純様 プロフィール】

大正4年群馬県安中市生まれ 昭和9年群馬県師範学校本科卒業。

昭和22年(32歳)安中市後閑中学校校長。

昭和38年(49歳)安中市教育長。

昭和46年(56歳)安中市助役。

昭和58年(68歳)天台宗布教師 全国各地にて2千6百回以上におよぶ講演御中。

今月の良い話

「人という字を刻んだ息子」

秋丸由美子(あきまる・ゆみこ様＝明月堂教育室長)

■医師からの宣告

主人が肝硬変と診断されたのは昭和54年、結婚して間もなくの頃でした。「あと10年の命とってください」という医師の言葉は、死の宣告そのものでした。主人は福岡の菓子会社・明月堂の五男坊で、営業部長として会社を支えていました。その面倒見のよさで人々から親しまれ、たくさんの仕事をこなしていましたが、無理をして命を落としては、元も子もありません。

私は「まずは身体が大事だから、仕事は二の次にして細く長く生きようね」と言いました。しかし主人は「精一杯生きるなら、太く短くていいじゃないか」と笑って相手にしないのです。この言葉を聞いて私も覚悟を決めました。10年という限られた期間、人の何倍も働いて主人の生きた証を残したいと思った私は、専業主婦として歩むのをやめ、会社の事業に積極的に関わって行きました。

30年前といえば、九州の菓子業界全体が沈滞ムードを脱しきれずにいた時期です。暖簾と伝統さえ守っていけばいいという考えが一般的な業界の意識でした。明月堂も創業時からの主商品であるカステラで、そこそこの利益を上げていましたが、このままでは将来どうなるか分からないという思いは常に心のどこかにありました。

そこで私は主人と一緒に関東・関西の菓子業界を行脚し、商品を見て回ることにしました。そして愕然としました。商品にしる包装紙のデザインにしる、九州のそれと比べて大きな開きがあることを思い知らされたのです。

あるお洒落なパッケージに感動し、うちにも取り入れられないかとデザイナーの先生にお願いに行った時のことです。「いくらデザインがよくても、それだけでは売れませんよ。それに私は心が動かないと仕事をお受けしない主義だから」と簡単に断られてしまいました。

相手の心を動かすとはどういうことなのだろうか……。私たちはそのことを考え続ける中で、一つの結論に達しました。それは、いかに商品が立派でも、菓子の作り手が人間的に未熟であれば、真の魅力は生まれないということでした。人づくりの大切さを痛感したのはこの時です。

■「博多通りもん」の誕生

以来、菓子屋を訪問する際には、売れ筋の商品ばかり見るのではなく、オーナーさんに直接会ってその考え方に触れることにしました。しかし、同業者が突然訪ねていって、胸襟を開いてくれることはまずありません。行くところ行くところ門前払いの扱いでした。

忘れられないのが、神戸のある洋菓子店に飛び込んだ時のことです。そのオーナーさんは忙しい中、一時間ほどを割いてご自身の生き方や経営観を話してくださったのです。

誰にも相手にされない状態が長く続いていただけに、人の温かさが身にしみました。人の心を動かす、人を育てるとはこういうことなのかと思いました。

いま、私たちの長男がこのオーナーさんのもとで菓子作りの修業をさせていただいています。全国行脚を終えた私たちは、社員の人格形成に力を入れる一方、それまで学んだことを商品開発に生かせないかと社長や製造部門に提案しました。

そして全社挙げて開発に取り組み、苦心の末に誕生したのが、「博多通りもん」という商品です。まったくしながらも甘さを残さない味が人気を博し、やがて当社の主力商品となり、いまでは博多を代表する菓子として定着するまでになっています。「天の時、地の利、人の和」といいますが、様々な人の知恵と協力のおかげでヒット商品の誕生に結びついたことを思うと、世の中の不思議を感じずにはいられません。

■「父を助けてください」

ところで、余命10年といわれていた主人はその後も元気で働き続け、私も一安心していました。しかし平成15年、ついに肝不全で倒れてしまいました。手術で一命は取り留めたものの、容態は悪化し昏睡に近い状態に陥ったのです。

知人を通して肝臓移植の話聞いたのは、そういう時でした。私の肝臓では適合しないと分かった時、名乗り出たのは当時21歳の長男でした。手術には相当の危険と激痛が伴います。

万一の際には、命を捨てる覚悟も必要です。

私ですら戻込みしそうになったこの辛い移植手術を、長男はまったく躊躇する様子もなく

「僕は大丈夫です。父を助けてください」と受け入れたのです。この言葉を聞いて、私は大泣きました。

手術前、長男はじっと天井を眺めていました。自分の命を縮めてまでも父親を助けようとする息子の心に思いを馳せながら、私は戦場に子どもを送り出すような、やり場のない気持ちを抑えることができませんでした。

そして幸いにも手術は成功しました。長男のお腹には、78か所の小さな縫い目ができ、それを結ぶと、まるで「人」という字のようでした。

長男がお世話になっている神戸の洋菓子店のオーナーさんが見舞いに来られた時、手術痕を見ながら

「この人という字に人が寄ってくるよ。君は生きながらにして仏様を彫ってもらったんだ。お父さんだけでなく会社と社員と家族を助けた。この傷は君の勲章だぞ」とおっしゃいました。

この一言で私はどれだけ救われたことでしょう。

お腹の傷を自慢げに見せる息子を見ながら、私は「この子は私を超えた」と素直に思いました。

と同時に主人の病気と息子の生き方を通して、私もまた大きく成長させてもらったと感謝の思いで一杯になったのです。

記事提供『致知』2007年5月号

プロ太の小話集 NO 15

宝くじで3億円を手にしたヒロシが、テレビ局のインタビューに答えていた。

「当選おめでとうございます！このお金は何に使いますか？」

「はい。5カ所の消費者金融に借金を返そうかと・・・」

「なるほど。で、残りはどうします？」

「はい。残りのところには、もうちょっと待ってもらおうかと・・・」

.....
今月の K-PURO ニュースいかがでしたか？

今月は戸建住宅の侵入方法について記載しました。

泥棒が実際にどのように侵入してくるかが少しご理解いただきましたでしょうか？

自分の家は入られても盗られるものがないから大丈夫！という方がよくいらっしゃいます。

そういう方には無駄なので、こちらから敢えてセキュリティの話はしないようにしています。

しかし、実際に被害に遭われた方々は、金品の被害より「怖い・・・」「また来るかも知れない・・・」「寝ている時に入ってきたら・・・」という精神的被害の方が大きいのです。PTSD(心的外傷後ストレス障害)と言います。

「備えあれば憂いなし」とむかしから言うように、ご心配な方は是非弊社へご相談下さい。



注：プロ太とは、写真のK-PURO番犬です。(体長10メートル・体重1トン・無敵無敗)